



赤利根ジャーナル

2017
6

赤利根

AKATONE



岡 正己 (おか・まさみ)

1980年12月29日生まれ。前橋市出身、下小出町在住、まちなかが活動拠点のため事務所は千代田町。made in 前橋の36歳。二児の父。前橋市議会総務常任委員。

ごあいさつ

本年2月の市議会議員選挙において、たくさんの市民の方々に背中を押していただいたおかげで、議会の場に初めて立つことができました。改めて皆様に感謝申し上げます。また、このような立場になったことの重要性、役割を胸に刻み、議員生活を邁進していく所存でございます。よろしくお願いいたします。

第一回定例会の報告

平成29年第一回定例会 総括質問2日目

赤利根（岡正己）20分間

※議員の発言内容は「読みやすさ」を意識し、一部割愛・編集している箇所がございます。

議事録は「前橋市議会議事録」としてウェブ上で公開されておりますのでそちらをご覧ください。

1. 旧中央小学校跡地利用について

（1）跡地利用の検討状況

（2）跡地活用検討の体制

2. 前橋・渋川シティマラソン開催事業について

（1）今後の展望

3. 街なか、中心市街地について

（1）中長期的対策



1. 旧中央小学校跡地利用について

岡正己議員 過疎化、ドーナツ化など、さまざまな問題で学校が統廃合される中、跡地になった学校を最善の策をもって地域に残していくことがこれからの地方都市にとっては特に重要であると考えます。学校はもともとその地域の交流の場となっていたり、その成り立ちや文化的にもとても重要な場所であると考えます。旧中央小学校は、駅と中心市街地を結ぶ起点となる場所にあり、その位置からも非常に重要な場所。その利活用次第で前橋の中心市街地の人の流れを大きく変える可能性を持っていると感じております。平成30年4月には、桃井小学校の改築工事が完了し、旧中央小学校があくこととなりますが、現在の検討状況について伺いたいと思います。

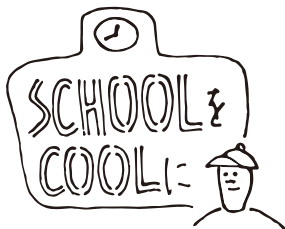
政策部長 現桃井小学校となっている旧中央小学校跡地の活用の検討状況でございます。現在桃井小学校として児童が使用中ですが、この使用が平成30年3月で終了となりますことから、来年度より跡地について具体的に本格的に検討を進めてまいりたいと考えております。旧中央小学校は、前橋駅に近く、また敷地面積が大きくまとまった土地であることから、大変貴重な財産であると認識しておりますので、地元や市全体の将来に向けて、有効な活用方法を研究してまいりたいと考えております。

岡正己議員 将来に向けて有効な活用方法を研究していくということですが、旧中央小学校の利活用については、駅から近いまち型の学校跡地活用として、大変注目されると思います。世界的に見れば、小学校の跡地利用はさまざまなものがあります。観光、文化振興、地域交流などさまざまな視点であの場所が生かされることが考えられます。利活用を研究し

たり、アイデアを出し合ったりする過程にも大変意味があると思います。どのように市民の思いを反映していくか、伺いたいと思います。

政策部長 跡地活用検討の進め方でございます。中央小学校は、昭和32年の開校当時から地域に根差し、地域とともに歩んできた学校でございます。桃井小学校との統合に当たっては、地域の皆様に苦渋の決断をいただいたものと認識しております。このことから、跡地の活用については、地域の方々のご意見等を聞きながら検討してまいりたいと考えております。

岡正己議員 要望といたしまして、中央小学校跡地利用の検討を有識者また子供たち、地域の方々、あとは卒業生などさまざまな方たちで組織した会議、ワークショップなどで今後中央小学校跡地がどのようなになっていくのがよいのかを考える組織づくりをしていただきたいと思います。海外には小学校跡地をホテルにしたり、大人の社交場として機能させたりとさまざまな事例が存在します。さまざまな事例をもとに、学校というその歴史を生かし、前橋からさまざまな芽吹きを生む場所として、全国の小学校跡地利用の模範となるような取り組みになることを期待しております。旧中央小学校の利活用次第では、前橋駅と市街地をつなぐ中心市街地活性化の南の核となることも考えられます。前橋にとって有益な跡地利活用を検討する組織づくりをお願いいたします。



2. 前橋・渋川シティマラソンについて

岡正己議員 前橋市は、富士見中学校の駅伝、前橋育英高校のサッカー部、野球部の活躍や元旦のニューイヤーズ駅伝の開催、敷島公園にはさまざまな県営施設もあります。スポーツのとても盛んな都市として認識されていると思います。毎年4月に開催されている前橋・渋川シティマラソン、9月に開催されている赤城山ヒルクライムは、本市のスポーツイベントの二枚看板と言っても過言ではないと思います。ことしもシティマラソンは大勢の方々が参加される中、県外や海外のランナーにさらにPRを行い、参加したいと思わせるような大会内容、名称に見直すことも必要だと思います。そこで、前橋・渋川シティマラソンの今後の展望について伺います。

文化スポーツ観光部長 前橋・渋川シティマラソンの今後の展開についてでございますが、群馬県初の市民参加型のフルマラソンとして誕生し、ことしで4回目を迎えます。この4回大会も6,500名を超えるランナーにエントリーをしていただいております。特にフルマラソンは、2,000名の募集定員のところ10日で定員に達するなど、人気の高さを感じているところです。しかし、この前橋・渋川シティマラソンのコースは、平成30年11月で日本陸上競技連盟の公認コース期間が満了となります。平成29年度には第6回大会に向けマラソンコース等の見直し準備を進めていく必要があると考えております。また、大会名称につきましても、実行委員の方々のご意見や考えを伺ってまいりたいと考えております。

岡正己議員 前橋、渋川という県外の方から見ればマイナーな都市の名前がついているマラソン大会よりも、例えば利根川を満喫できるコース設定に変更



したりする、また川沿いを走る特性から名称を利根川マラソンにするのはいかがでしょうか。流域面積が日本一である利根川周辺を走ることができる大会として、春の利根川マラソン、秋の赤城山ヒルクライム大会という本市の2大スポーツイベントとして幅広い集客を視野に入れることで、県外または海外にPRできるイベントになると考えます。日本一の山が富士山であれば、日本一の川は利根川です。海外からの目線で考えたときも、日本一の川の名前がついたマラソン大会の開催場所が前橋、渋川という認識を持っていただいたほうがいい。今後の地域連携DMOなどでも、先日桐生と赤城山の連携の話がございましたが、例えば水上などと一緒になって、利根川でのアクティビティーのPRは可能でしょう。川の上流と下流、同じ川でつながっている地域と連携してDMOを組むことで、日本一の川を利用して観光PRができると思います。ぜひその辺を踏まえてご検討いただきたいです。

3. 中心市街地について

岡正己議員 何かといういろいろなことが言われている前橋の中心市街地ですが、その呼び方だけでもさま



ざまあります。まちなか、中心市街地、中心商店街、いろいろな名前でさまざまなお金が投入されていると思います。現状の中心市街地を見る限り、イベントなどの短期的な取り組みだけでなく、将来展望を持って中長期的な視点からも事業に取り組むべきと考えます。そこで、新年度の中心市街地活性化事業に関して、中長期的な視点から実施する取り組みとしてどのようなものがあるか、お尋ねします。

産業経済部長 本市では、現在今年の4月からスタートいたします中心市街地活性化基本計画の策定に向けて準備を進めております。この計画では、将来の目標像を世界中の人々から暮らしてみたいと選ばれるまちと定め、文化芸術交流、職住近接、経済活力、デザイン力の4つを基本方針として、各事業に取り組んでいく予定でございます。新年度事業では、従来の空き店舗対策を一步進め、まちなかの老朽化した物件を取得して、みずから店舗を新築する事業者を財政的に支援する制度や老舗店舗の事業承継に対する補助制度、また経営者のU・I・Jターンを促進する補助制度などを開始する予定でございます。これらの新規事業は、いずれも5年先、10年先の中心市街地を見据え、事業展開するものでございまして、議員さんのご質問のとおり中長期的な視点から取り組むものでございます。

岡正己議員 新年度事業の中で、中長期的な視点から

ら取り組む事業があるということは理解いたしました。従来の空き店舗対策に加え、新たな視点で事業に取り組む姿勢は、大変評価したいと思います。今後中長期的な視点から店舗誘致を行う場合、補助金を受給する店舗に対して、例えば道路側に一定面積のガラス窓を設けて、通りから店内が見えるようにしてもらおうとか、周辺店舗と統一感のあるファサード、正面の見た目に仕上げてもらうといった一定の条件づけをすることで、まちとして一体感が出て、魅力ある商店街環境を形成することができると考えているのですが、当局の見解を伺いたいです。

産業経済部長 空洞化対策事業での店舗誘致の際の内外装に条件をつけることに関してでございますけれども、現在策定中の中心市街地活性化基本計画でも、基本方針の一つにまちのデザイン力を高めることを掲げております。本市の地域特性と共存できるすぐれたデザインや意匠について、まちなかに取り入れていきたいと考えております。

なお、本市の地域性と共存できるデザインや意匠のあり方に関しましては、地域の住民や来街者、事業者などとの幅広い視点から議論を行う必要がございますが、今後議員さんのご意見も踏まえ、関係者とも基準づくりを検討したいと考えております。

岡正己議員 誘致店舗に対する条件づけに関しては、おおむね理解いたしました。今後より多くの来街者

に支持される商店街づくりを進めるためには、例えば商店街一つ一つにテーマを持たせ、外国人住民、留学生などと一緒に多国籍なお店を連ね国際通りにするとか、さまざまなカフェを連続して出店させてカフェ通りであるとか、複数のパン屋が店を構えるパン屋通りなど、切磋琢磨を促して通りのコンセプトを明確にしていく必要があると思います。ただし、個別店舗や商店街だけでこれを実現するのは困難であり、そこには出店予定者や行政関係者のほか、まちづくりプロデューサーなどの専門家も加わり、各通りで中長期的なコンセプトづくりのための検討委員会をつくってみてはどうかと思います。当局の見解をお願いします。

産業経済部長 ご提案いただきましたまちなかにカ



フェやパン屋通りなどが出現するようになれば、確かに特色ある商店街として新たな来街者を誘引できることから、議員さんにご質問いただきましたとおり、各通りのコンセプトづくりは大変重要な視点であるというふうに考えております。ご提案いただきました商店街の関係者、まちづくりの専門家などを集めた通りのコンセプトづくりにつきましては、大変重要だというふうに考えておりますので、今後商店街関係者の意見を聞きながら、支援のあり方等につきまして検討していきたいと考えております。



赤利根ジャーナルのキーワード

ひらく
OPEN

市議や議会の動きを
「見やすく・参加しやすく」します。

共有する
SHARE

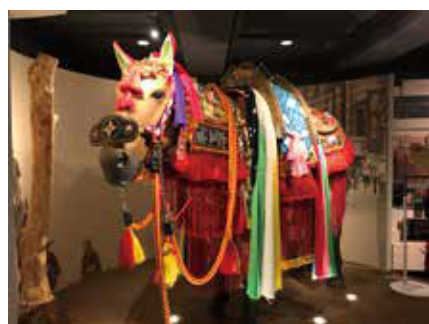
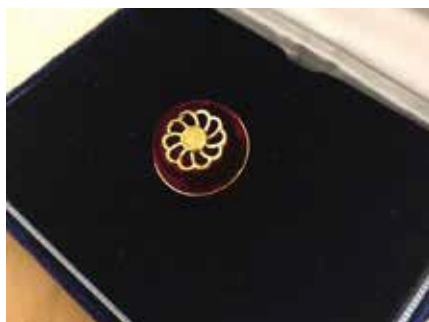
会派「赤利根」と所属市議の
「想い・感覚・体験」をあなたと共有します。

実行する
ACTION

「前橋を自慢できる都市」
にするためのアクションを促します。

PICKUP

FROM FACEBOOK



①**議員バッジ** バッジを受け取り赤利根が生まれました。初心忘れるべからず。志高く、前橋のために邁進します。ちなみに議員バッジは made in USA。

②**控え室入り口** 前橋市役所隣にある議会棟3階に、赤利根の控え室があります。所属議員1人の4会派が同じ部屋に集まっています。

③**ヴェントマエバシグランドオープン式典** 前橋駅の物産館がリニューアルオープンし、「Vento Maebashi」に。夜11時まで営業しているビザ屋さんもあり前橋の玄関口が明るくなりました。

④**ジョブセンターまえばし開所式** 若者・子育て女性のための総合的就職支援施設【ジョブセンターまえばし】の開所式に出席しました。

若者、子育てママが働くための要素が今まで以上にワンストップ化していて充実した施設です。

⑤**行政視察1：アップルヒル** 行政視察で青森市、盛岡市、塩釜市に伺いました。それぞれ道の駅、防災関連、資料館、政策の推進について参考事例を学びました。写真は、前橋市に新しくできる道の駅の参考に「道の駅なみおかアップルヒル」。青森で1位、東北で4位の集客を誇るそう。

⑥**行政視察2：もりおか歴史文化館** 盛岡市へ。もともと図書館だった建物をリノベーションした施設。地元の歴史、文化が一つにまとまっている施設は前橋にはないのでとても羨ましく思いました。

第2回定例会開催中

どなたでも傍聴できます。赤利根は22日(木)に最大23分間の質問を行います。

6月14日(水) 本会議(初日)

6月21日(水)～23日(金) 本会議(総括質問)

6月30日(金) 本会議(最終日)

※本会議の傍聴は議会庁舎5階の議場入口で受け付けます。

※手話通訳を希望される場合は、傍聴希望日の7日前までに下記へご連絡ください。

前橋市議会 〒371-8601 前橋市大手町二丁目12-1

電話 027-224-1111 (内線 2323) 直通 027-898-5923

